



◀特別出品 クロード・モネ「ポール＝ドモワの洞窟」1886年

本展覧会の見どころはさまざまですが、近美コレクションの核のひとつで、近代日本を代表する洋画家、中村彝(1887～1924)の作品は見逃せません。

水戸に生まれた中村彝は、レンブラント、ルノワール、セザンヌなどのさまざまな西洋絵画を学び、独自の作風を創り出しました。持病の結核と向き合い、37年という短い生涯でしたが、深淵な精神性をたたえる作品を描いて、日本美術史上に大きな足跡を残しています。



▲中村彝「花」1923年



▲野沢二郎「水面/薄明」2011年



▲熊岡美彦「緑衣」1925年

### 印象派モネの特別出品

近美の西洋絵画の収集は、中村彝に影響を与えた印象派の画家オーギュスト・ルノワールの作品を、昭和56年度に購入したことに始まります。その後、近美の開館記念展が「モネとその仲間たち」であったことから印象派の収蔵品が増え、西洋絵画のコレクションが充実していきました。

本展覧会では、印象派の巨匠クロード・モネの作品が特別出品されます。フランス西北部、ブルターニュ半島の南の島ベリール(「美しい島」を意味する)の海岸を描いた作品「ポール＝ドモワの洞窟」です。当時制作旅行に明け暮れていたモネが、荒海と入り組んだ断崖、奇石で有名なこの島で描いた約40点の作品のうちの一つで、近美コレクションの白眉とされている作品です。遠くフランス、ブルターニュ地方の光と空気の中で描かれたモネの名品を、古河の地で鑑賞できる絶好の機会となるでしょう。

移動美術館の会期は、9月16日(土)から11月5日(日)まで。入場は無料です(常設展は有料)。期間中は、近美のスタッフによるハロー!ミュージアム、ミニ・ガイド&ミニ・ワークショップ、そのほかの関連イベントも多数開催されます。皆様のご来館を、心よりお待ちしております。

古河街角美術館学芸員 倉井直子

※次号(平成29年10月号)は休載します。